

令和3年度 生徒による授業評価(報告)

【1】 授業評価の流れ

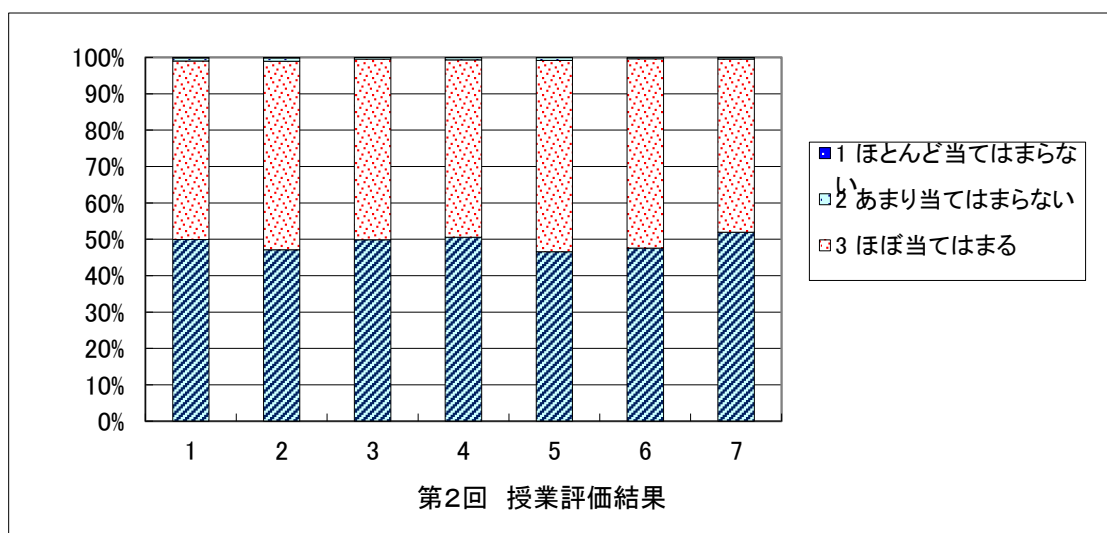
6月	調査方法・評価項目等の検討
7月	第1回の授業評価実施
8・9月	集計結果の分析、課題と解決の手立ての検討
10～11月	分析結果をもとに、研究授業等の授業改善に取り組む
12月	第2回の授業評価実施
1～3月	集計結果の分析、改善状況と今後の課題の検討

【2】 授業評価の結果

第2回生徒による授業評価の結果は次の通りです。

項目 評価		上段： 実数 下段： %						
		1	2	3	4	5	6	7
		授業の在り方について			学習の状況について			
		先生は毎時間の授業や単元(内容のまとも)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりしていた	授業の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める場面があった	授業の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面があった	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた
4	かなり当てはまる	2084 50.0%	1965 47.1%	2080 49.9%	2109 50.6%	1942 46.6%	1985 47.6%	2166 51.9%
3	ほぼ当てはまる	2044 49.0%	2160 51.8%	2068 49.6%	2032 48.7%	2189 52.5%	2170 52.0%	1986 47.6%
2	あまり当てはまらない	36 0.9%	36 0.9%	19 0.5%	24 0.6%	33 0.8%	15 0.4%	18 0.4%
1	ほとんど当てはまらない	5 0.1%	7 0.2%	1 0.0%	4 0.1%	3 0.1%	0 0.0%	2 0.0%

グラフ資料



【3】 授業評価結果の分析

- ① 授業の在り方に関する項目(1～3)においては、すべての項目で「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の合計が、98%を超える高い評価を得ました。生徒は概ね授業には満足していると考えられます。今後も生徒主体の授業を目指して、授業内容の充実や指導方法の工夫等の努力を重ね、生徒同士の学び合いの機会を増やし、生徒が関心・興味を持って学習に取り組めるように授業改善を進めていきます。
- ② 学習の状況に関する項目(4～7)においても、すべての項目で「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の合計が、99%を超える高い評価結果になりました。授業で知識を身に付けるとともに、今までに学んだことと関連付けて理解をすることができていると考えられます。しかしながら、他者の考えを知り、自分の考えを広げたり、今まで学習した内容を用いて問題解決をすることが苦手である生徒が少なからずいる現状もあることから、来年度も継続して生徒の学習意欲を高め、生徒が身に付けた知識や技術を積極的に活用できるような授業展開を目指します。

【4】 まとめ

生徒による授業評価のすべての項目において、肯定的評価が98%以上であり、この結果を鑑みると、生徒は授業に満足して取り組んでおり、学校目標である「基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を向上させる」等が十分達成できたものと考えられます。昨年度同様、本校の様々な授業改善の取組が正しい方向に進み、成果を上げたものであると確信しております。

本校では、授業改善のテーマとして「聞く力を見取り、主体的・対話的で深い学びにつなげる創意工夫」を掲げ、学校全体で授業改善に取り組んできました。コロナ禍において、言語活動が極端に減少することがないよう、実施方法を工夫し基礎学力の定着を図り、生徒が主体的に参加できる授業の実践のために、校内の研究授業及び研究協議会等を通じて、指導方法や教材の工夫、様々な面で情報の共有を行う等、生徒がわかりやすい授業を日々研究し、その後の授業に活用してきました。また、今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、分散登校の実施や実習やグループワーク等の制限がありました。これらも生徒の学習に大きく影響するのではないかと考えられていましたが、オンライン授業の実施や実習、グループワークの制限の中での授業内容の工夫によって、生徒が日々の学習の中で様々な学びを得ている様子が伺えました。コロナ禍においても、今後も例年の授業展開とは異なる方法を模索し、さらなる授業改善を目指していきます。

また、昨年度以上に「google classroom」を活用する場面が増え、ICTを教育に取り入れる試みが「自分で考えて行動する力・自学自習力の確立」を育む一助になっていると考えております。

生徒一人ひとりの個性、学習力に対して、今まで以上に柔軟に対応し、より良い自己実現が可能になるように、来年度もさらにより良い授業改善に努めていきます。

「生徒による授業評価」は、授業を客観的に評価する一つの重要な方法です。生徒からの評価を通して授業に関する課題を改善して指導力の向上につなげると同時に、学校としての組織的な授業改善を進め、より良い授業の構築を目指します。

さまざまな場面において、家庭との連携が一番重要です。連絡を密にとり、生徒支援ができますようご協力をよろしく願いいたします。なお、ご質問やご意見等がございましたら、問合せ先までご連絡ください。

問合せ先	
県立二俣川看護福祉高等学校	
副校長	吉田
TEL	045-391-6165